

平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT25053 サバにマグロを産ませる～魚の代理親(だいいりおや)技術の開発～



開催日：平成25年8月23日(金)
実施機関：東京海洋大学水圏科学フィールド教育研究センター館山ステーション
実施代表者：竹内 裕
(所属・職名) (先端科学技術研究センター・准教授)
受講生：小学生11名、中学生2名
関連URL：

【実施内容】

1) 受講生に分かりやすく伝えるために
・研究の背景、必要性、社会的意義について、小学生向けのパワーポイントを作成して講義した。
・プログラム開始前に顕微鏡を使い方を個人指導し、その際に会話をすることで、話しかけやすい雰囲気、和やかな雰囲気作りに努めた。
・実験器具、顕微鏡、実験試料(魚や細胞)は、一人に対して一つずつ配置、配付した。
・TA(大学院生、博士研究員)を受講生3人に対して1人の割合で配備し、気軽に話しが出来るように配慮した。

2) 当日のスケジュール
9:30 - 受付開始
10:00-10:30 はじめのあいさつ&説明(科研費(かけんひ)って?)
10:30-12:00 実験1: けんび鏡観察&砂浜で宝探し(ビーチコーミング)
12:00-13:30 昼食&集合写真&施設見学
13:30-15:00 実験2: 魚の解剖(かいぼう)
15:00-16:00 体験授業: 「サバにマグロを産ませる!」&修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
16:00 解散

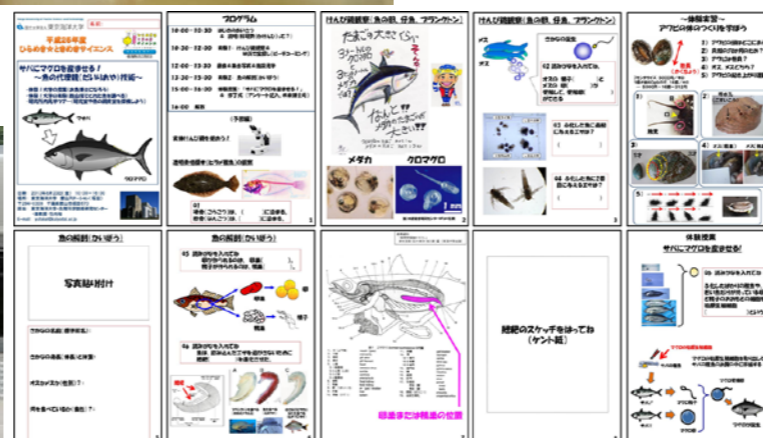
3) 実施の様子
・定置網でとれた新鮮な魚を使って、解剖実習を行った。
・図鑑を使った標準和名検索や、鰓の観察による食性の推測、生殖腺の観察による性別の調査を行った。
・施設見学では、サメのタッチプールや、アワビ獲り体験(アワビの生態についてのミニ講義)を行った。
・当日配布したテキスト(写真を貼り付けたり、答えを書き込むことで、学習を効果を高めるように心がけた)

4) 事務局との協力体制
・実施場所が本学事務局とは離れていたため、E-maiや電話での連絡で相互協力した。

5) 広報体制
・本事業HPからの応募者のみで定員数に達する応募が得られた。

6) 安全体制
・TAの人数を充実させることと、実習に使用する実験器具を吟味し、その取り扱い方法の説明を充分に行った。

7) 今後の発展性、課題
・継続的に開催を望む声が多かった。
・プログラムは滞りなく実施され、主催者、参加者ともに有意義な時間を共有できた。



【実施分担者】

益子正和 東京海洋大学・水圏科学フィールドセンター・館山ステーション(坂田)・技術職員
小西淳平 東京海洋大学・海洋科学部・海洋生物資源学科・4年
王俊杰 東京海洋大学・先端科学技術研究センター・非常勤職員(博士研究員)
竹内美奈子 東京海洋大学・元非常勤職員(技術補佐員)

【実施協力者】 4 名

【事務担当者】
国際・研究協力課研究協力係 林 和宏